

(TRANSLATION)

Our Ref.: OP1439-US

Prior Art Reference 1:

Japanese Patent Laid-Open Publication No. 02(1990)-287824

Laid-Open Date: November 27, 1990

Title of the Invention: SYSTEM OF PRODUCING CONTROL SENTENCE

Patent Application No. 01(1989)-111189

Filing Date: April 28, 1989

Inventors: Junichi YAMAMOTO and Yoshio KASHIMURA
c/o Fujitsu Ltd.
Kawasaki-shi, Kanagawa-ken, Japan

Applicant: FUJITSU LTD.
Kawasaki-shi, Kanagawa-ken, Japan

Translation of Claim
(this cited document has only one claim)

Claim:

A system of producing control sentence for producing control sentences corresponding to different OS's, comprising:

a model (6) in which registered the variable information part of a CL procedure/control sentence corresponding to an OS, which has been prepared as a variable in advance; and

a menu definition (3) in which registered in advance the variable information part which has been taken out of the model (6) and is made in a menu form which does not depend on the control sentence; and

wherein the menu, which has been taken out of the menu definition (3), is displayed on the display screen, and when the user inputs

a value to the variable information part displayed on the menu, a desired CL procedure/control sentence, wherein the inputted value is replaced with the corresponding variable information part of the model (6), is automatically produced and executed.

/ / / / / / / / / / LAST ITEM / / / / / / / / / / /

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 02-287824

(43)Date of publication of application : 27.11.1990

(51)Int.Cl.

G06F 9/06

(21)Application number : 01-111189

(71)Applicant : FUJITSU LTD

(22)Date of filing : 28.04.1989

(72)Inventor : YAMAMOTO JUNICHI
KASHIMURA YOSHIO

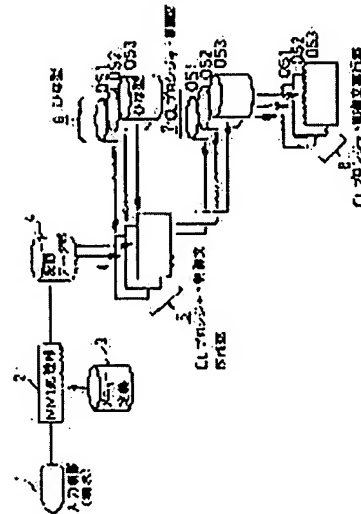
(54) PRODUCTION SYSTEM FOR CONTROL SENTENCE

(57)Abstract:

PURPOSE: To easily carry out the control language CL procedure/control sentence and to attain the use of a common MMI by inputting the value of a variable information part of a CL procedure/control sentence model corresponding to an OS via a menu for automatic production of a desired CL procedure/control sentence.

CONSTITUTION: A model 6 is prepared to previously produce and register the variable information part of a CL procedure/control sentence corresponding to an OS as a variable. At the same time, the menu definition 3 is added to take out the variable information part of the model 6 and to previously register the information part in a menu form. When the value is inputted to the variable information part of a menu which is taken out of the definition 3 and displayed on a screen, a desired CL procedure/control sentence where the input value is replaced with the corresponding variable information part of the model 6 is automatically produced and carried out.

As a result, the CL procedure/control sentence is automatically produced even by a user having no different grammatical knowledge of the OS. At the same time, even the CL procedure/control sentence of an OS having different grammars can be produced with a common MMI.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision]

of rejection]

- [Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

⑫ 公開特許公報(A) 平2-287824

⑬ Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)11月27日

G 06 F 9/06

4 1 0 D

7361-5B

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

⑮ 発明の名称 制御文生成方式

⑯ 特 願 平1-111189

⑰ 出 願 平1(1989)4月28日

⑱ 発 明 者 山 本 淳 一 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社内

⑲ 発 明 者 桜 村 嘉 夫 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社内

⑳ 出 願 人 富士通株式会社 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

㉑ 代 理 人 弁理士 岡田 守弘

明 細 書

とする制御文生成方式。

1. 発明の名称

制御文生成方式

2. 特許請求の範囲

異なるOSに対応する制御文を生成する制御文生成方式において、

OSに対応するCUIプロシジャ・制御文のうちの可変情報部分を変数として予め作成して登録したひな型図と、

このひな型図のうちの可変情報部分を取り出して制御文などに依存しないメニュー形式にして予め登録するメニュー定義図とを備え、

このメニュー定義図から取り出したメニューを画面上に表示し、利用者がこのメニュー上に表示された可変情報部分に値を入力したことに対応して、この入力値を上記ひな型図の該当可変情報部分に置き換えた所望のCUIプロシジャ・制御文を自動生成し、実行するように構成したことを特徴

3. 発明の詳細な説明

(概要)

異なるOSに対応する制御文を生成する制御文生成方式に関し、

OSに対応するCUIプロシジャ・制御文のひな型の可変情報部分の値をメニューから入力して所望のCUIプロシジャ・制御文を自動生成して実行し、CUIプロシジャ・制御文の文法知識がなくても実行可能および共通のMMIの使用を可能にすることを目的とし、

OSに対応するCUIプロシジャ・制御文のうちの可変情報部分を変数として予め作成して登録したひな型と、このひな型のうちの可変情報部分を取り出して制御文などに依存しないメニュー形式にして予め登録するメニュー定義とを備え、このメニュー定義から取り出したメニューを画面上に表示し、利用者がこのメニュー上に表示された可変情報部分に値を入力したことに対応して、この

入力値を上記ひな型の該当可変情報部分に置き換えた所望のＣＬプロシジャ・制御文を自動生成し、実行するように構成する。

〔産業上の利用分野〕

本発明は、異なるＯＳに対応する制御文を生成する制御文生成方式に関するものである。

〔従来の技術と発明が解決しようとする課題〕

従来、計算機上でいくつかの制御文を使用し、各種の作業を進めていく場合、定型作業について、ＣＬ（コントロールランゲージ）プロシジャや制御文を作成して行う。しかし、ジョブを異なるＯＳで実行するためには、ＯＳによってＣＬプロシジャ・制御文の文法が異なるため、そのＯＳの制御文の文法に変換して新たに作成して実行していた。このため、同一の処理を行うジョブを実行する場合でも、ＯＳが異なるとＣＬプロシジャや制御文の形式が異なり、それぞれの文法の知識が必要になると共に、それぞれの形式に書き直す手間

3

を変数として予め作成して登録したひな型６、およびこのひな型６のうちの可変情報部分を取り出して制御文に依存しないメニュー形式にして予め登録したメニュー定義３を準備し、このメニュー定義３から取り出して画面上に表示したメニューの可変情報部分に対して利用者が値を入力したことに対応して、この入力値をひな型６の該当可変情報部分に置き換えた所望のＣＬプロシジャ・制御文を自動生成し、実行するようにしている。

従って、利用者は異なるＯＳの文法知識を持たなくても、メニューから可変情報部分に値を入力することによってＣＬプロシジャ・制御文を自動生成して実行することが可能となると共に、異なる文法を持つＯＳのＣＬプロシジャ・制御文であっても共通のＭＭＩで作業を行うことが可能となる。

〔実施例〕

次に、第１図および第２図を用いて本発明の１実施例の構成および動作を順次詳細に説明する。

が必要となってしまうという問題があった。

本発明は、ＯＳに対応するＣＬプロシジャ・制御文のひな型の可変情報部分の値をメニューから入力して所望のＣＬプロシジャ・制御文を自動生成して実行し、ＣＬプロシジャ・制御文の文法知識がなくても実行可能および共通のＭＭＩの使用を可能にすることを目的としている。

〔課題を解決する手段〕

第１図は、本発明の原理構成図を示す。

第１図において、ひな型６は、ＯＳに対応するＣＬプロシジャ・制御文のうちの可変情報部分を変数にして予め作成して登録したものである。

メニュー定義３は、ひな型６のうちの可変情報部分を取り出して制御文に依存しないメニュー形式にして予め登録したものである。

〔作用〕

本発明は、第１図に示すように、ＯＳに対応するＣＬプロシジャ・制御文のうちの可変情報部分

4

第１図において、入力装置１は、メニューを表示するディスプレイ、およびこのディスプレイ上に表示したメニューの可変情報部分に対して値を入力するキーボードなどを備えた端末である。

ＭＭＩ処理部２は、マンマシンインタフェースであって、メニュー定義３から取り出したメニューを入力装置１のディスプレイ上に表示すると共に、このメニューの可変情報部分に入力された値を変数データ部４に格納などするものである。

メニュー定義３は、予め作成して登録したＯＳに対するＣＬプロシジャ・制御文のひな型のうちの可変情報部分に対して利用者の入力を可能にしたメニュー形式に作成して予め登録したものである。

変数データ部４は、メニュー上の可変情報部分に対して利用者から入力された入力値を、ひな型の変数に対応づけて格納するものである。

ＣＬプロシジャ・制御文作成部５は、利用者から入力されて変数データ部４に格納されている可変情報部分に対する入力値（変数に対する値）を

取り出し、ひな型 6 から取り出した OS に対応するひな型の可変情報部分（変数部分）に置き換え、C L プロシジャ・制御文 7 を作成するものである。

ひな型 6 は、OS に対応する C L プロシジャ・制御文のうちの可変情報部分を変数にして予め作成して登録したものである。

C L プロシジャ・制御文 7 は、C L プロシジャ・制御文作成部 5 によって作成された C L プロシジャ・制御文である。

C L プロシジャ・制御文実行部 8 は、C L プロシジャ・制御文 7 を実行させるものである。

次に、第 1 図構成の動作を説明する。

(1) 実行したいジョブの C L プロシジャ・制御文の可変情報部分を変数にしたひな型を作成してひな型 6 として予め登録すると共に、この可変情報部分のみを取り出し、メニュー形式で利用者が値をキー入力し得るようにメニューを定義してメニュー定義 3 に予め登録する。

(2) M M I 処理部 2 が入力装置 1 のディスプレイ上にメニュー定義 3 から取り出してメニューを

7

可変情報部分をメニュー形式でディスプレイ上に表示したものである。このメニュー 1-1 上の左側の部分（例えば“ボリューム通し番号”）は、ひな型 6-1 の可変情報部分を変数として記載したもの（例えば“&VOLUME”）に対応している。

次に、動作を①ないし⑥の順序で説明する。

第 2 図において、①は、ひな型 6-1 を作成して登録する。これは、ある OS の C L プロシジャ・制御文の可変情報部分を変数とした図示ひな型 6-1 を作成して登録する。

②は、ひな型 6-1 の C L プロシジャの記号変数をマッピングしたメニューを作成(CRTFMT)し、LIB FORMAT 3-1 として登録する。

③は、この登録した LIB FORMAT 3-1 に対する初期値を辞書 9 に登録する。

④は、辞書情報（初期値、既定義情報）の入力を行う。

⑤は、メニューの入出力を行う。LIB FORMAT 3-1 から取り出したメニューをメニュー 1-1 としてディスプレイ上に図示のように表示する（但

表示し、利用者がこのメニューの可変情報部分に値をキー入力したことに対応して、この入力値を変数データ部 4 に格納する。

(3) C L プロシジャ・制御文作成部 5 が変数データ部 4 から取り出した入力値を、ひな型 6 から取り出したひな型の可変情報部分に置き換え、C L プロシジャ・制御文 7 を作成する。

(4) C L プロシジャ・制御文実行部 8 がこの作成された C L プロシジャ・制御文 7 を実行させる。

第 2 図は、本発明の 1 実施例構成図を示す。

第 2 図において、ひな型 6-1 は、ある OS に対する C L プロシジャ・制御文について、可変情報部分を変数として記載したひな型である。ここで、可変情報部分の変数は、括弧で囲んだ“&VOLUME”（ボリューム通し番号）、“&LIBNAME”（ライブラリ名）、“&LIBTYPE”（タイプ）、“&DSNAME”（退避ファイル名）、“&POSITION”（退避ファイル位置）である。

メニュー 1-1 は、例えば“ライブラリの退避”を実行する C L プロシジャ・制御文のうちの

8

し、下線部は当初、初期値、デフォルト値、あるいは何も表示されていないのいずれかである）。

⑥は、定義情報（利用者がメニュー 1-1 の下線部に入力した値、あるいは予め表示した初期値など）の出力を行う。

⑦は、メニュー 1-1 から入力された入力値で、ひな型 6-1 から取り出した C L プロシジャ・制御文の変数部分を置き換え、新たな C L プロシジャ・制御文の生成を行う（生成 CLIST）。

⑧は、生成した C L プロシジャ・制御文のライブラリ登録（LIB CLIST）、および C L プロシジャ・制御文の実行を行う。

以上の処理によって、“ライブラリの退避”の処理が実行される。

（発明の効果）

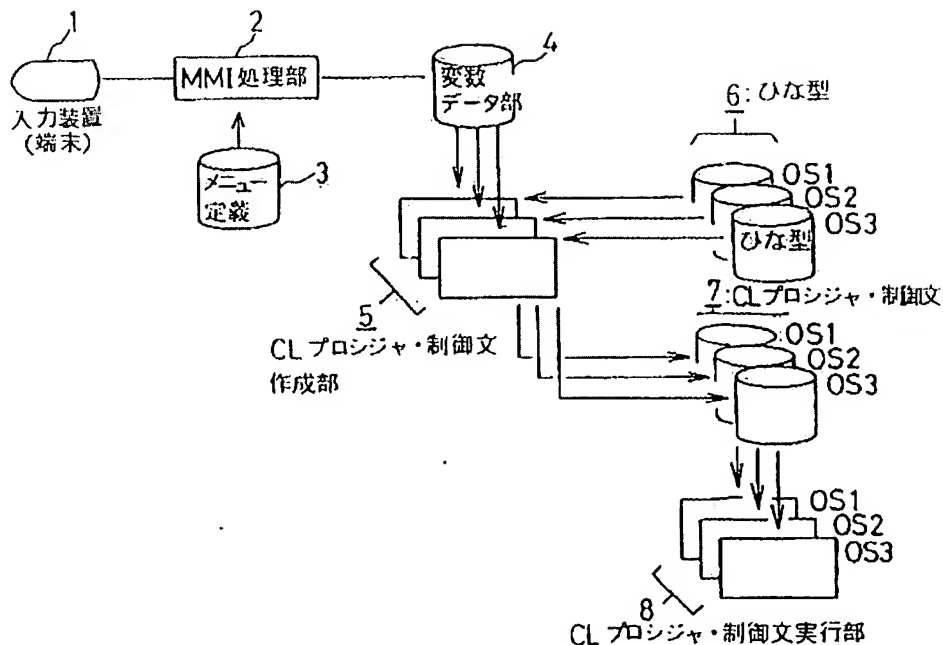
以上説明したように、本発明によれば、OS に対応して C L プロシジャ・制御文の可変情報部分を変数にしたひな型 6 を予め準備し、このひな型 6 の可変情報部分の値をメニューから入力して所

- ・ 望のCLプロシジャ・制御文を自動生成し、実行する構成を採用しているため、利用者は異なるOSの文法知識を持たなくても、メニューから可変情報部分に値を入力することによってCLプロシジャ・制御文を自動生成して実行することができると共に、異なる文法を持つOSのCLプロシジャ・制御文でも共通のMMIで作業を行うことができる。また、初期情報や既存の定義情報を予め登録することにより、メニュー1への初期表示、既定義情報表示を行い、操作性、生産性を向上させることができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の原理構成図、第2図は本発明の1実施例構成図を示す。

図中、1は入力装置、1-1はメニュー、2はMMI処理部、3はメニュー定義、5はCLプロシジャ・制御文作成部、6、6-1はひな型、7はCLプロシジャ・制御文、8はCLプロシジャ・制御文実行部、9は辞書を表す。



本発明の原理構成図

